

和地・堀切・伊良湖の3小学校統合に向けて

統合準備委員会 H25.01.20 (月) 14:00～ 和地小学校



伊良湖岬

愛知県田原市立和地小学校



和地小学校の62名の子どもたち

学習意欲が高く、真剣に取り組む
礼儀正しく、明るく挨拶できる
全校が仲よく、協力して遊べる

はっきりとした声で積極的に発表
責任感が強く、清掃・係活動も
高学年がリーダーとして自覚



1年 千賀学級



4年 渥美学級



2年生 小木曾学級



5年生 柴田学級



3年生 荒木学級



6年生 小久保学級

児童数の減少...5年後には45名に

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校
男子	5	4	6	7	4	4	30
女子	5	3	2	10	7	5	32
学年	10	7	8	17	11	9	62

せまく限られた交友関係
たくましさに欠け、ひ弱な子も



縦割り班を通年で企画・運営
高学年にリーダー意識を育成

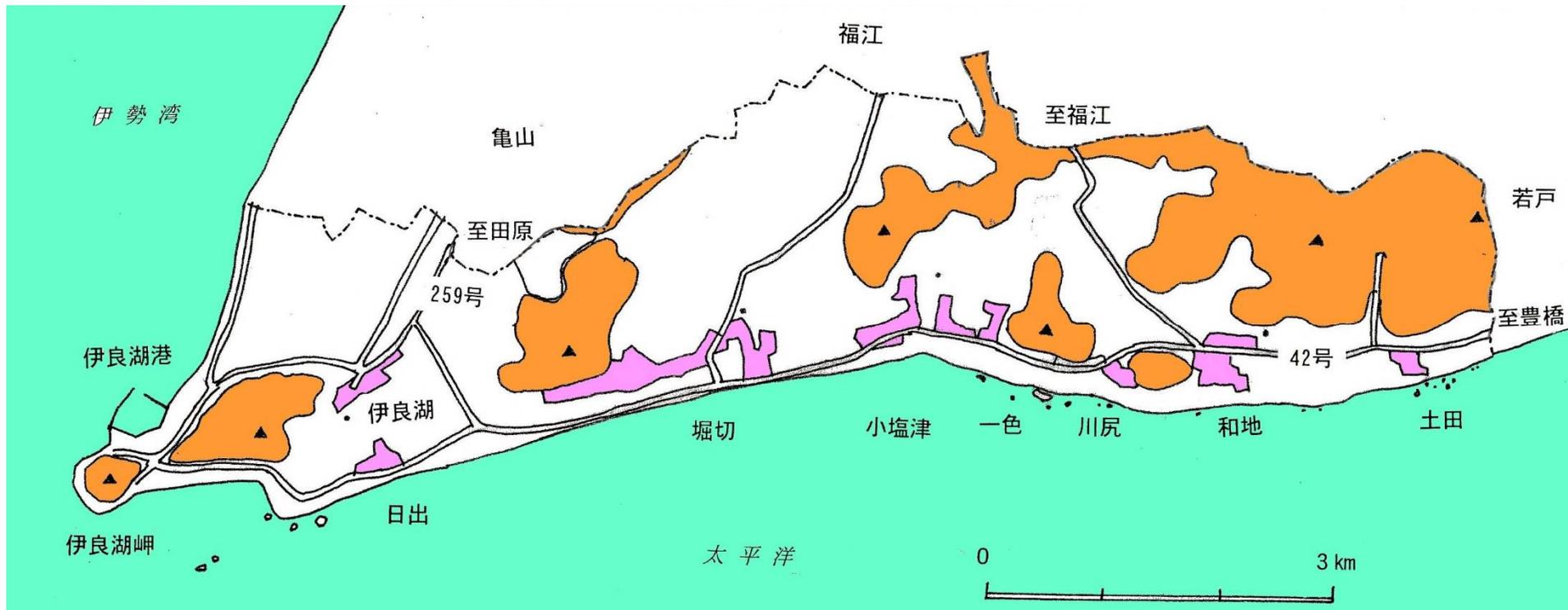


対外交流や部活動で鍛える

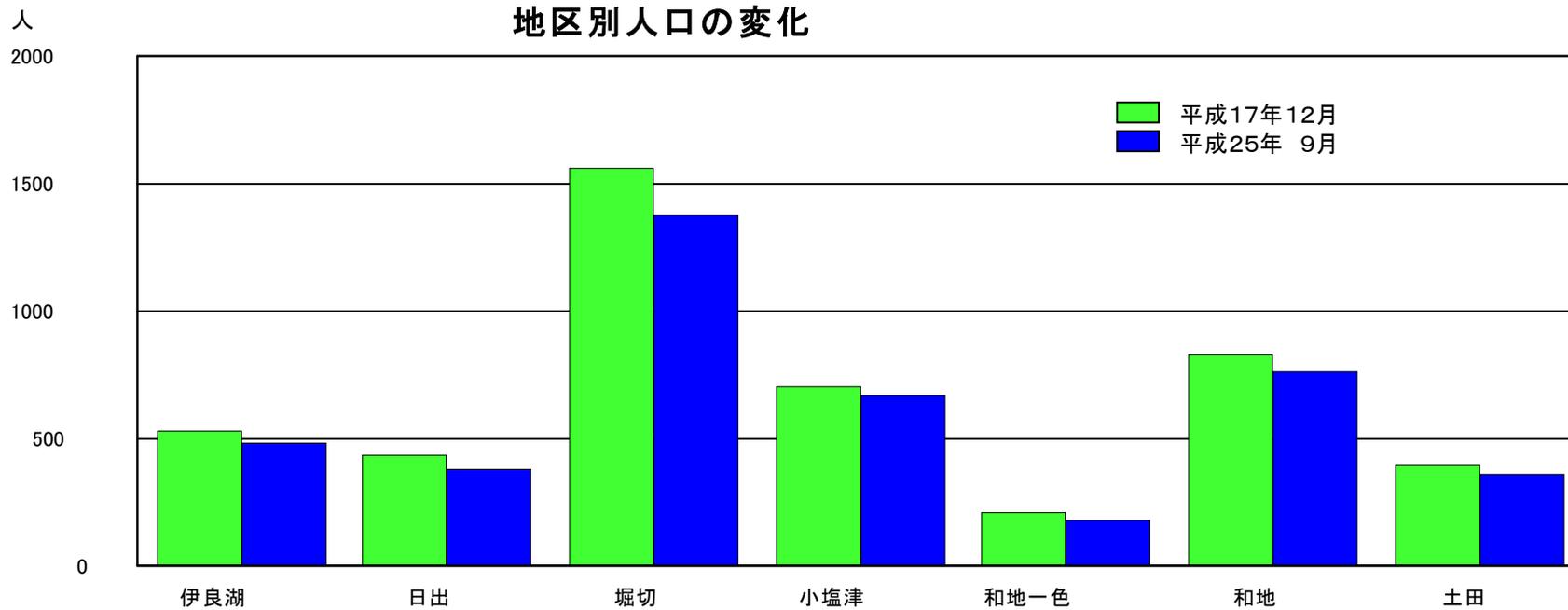


平成18年～
和地小学校
＋阿南町4小学校

平成24年～
和地・堀切・伊良湖
3小学校の5年生
＋阿南町4小学校
の5年生

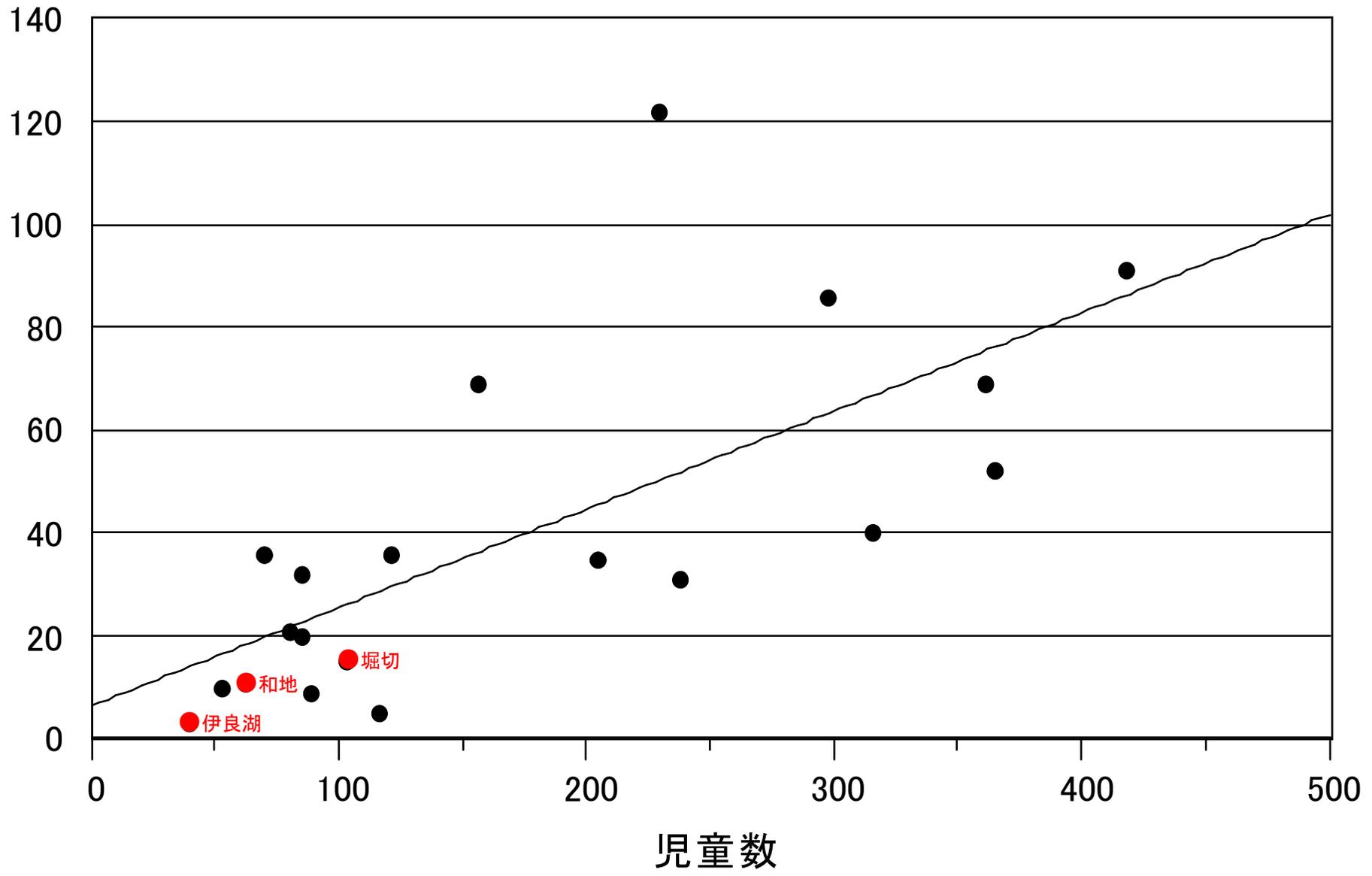


地区別人口の変化



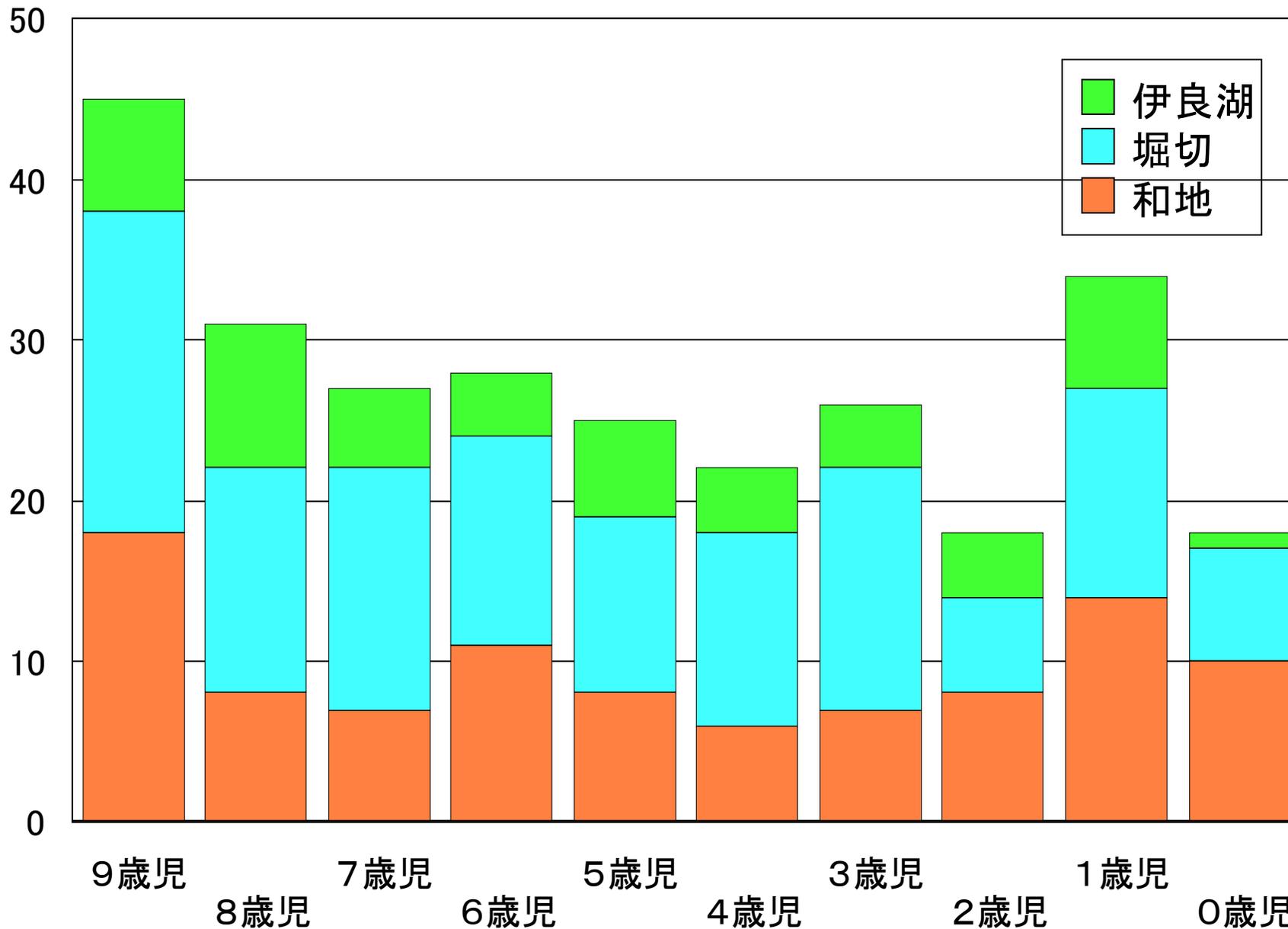
平成25年度 田原市小学校陸上競技大会成績と学校規模

得点



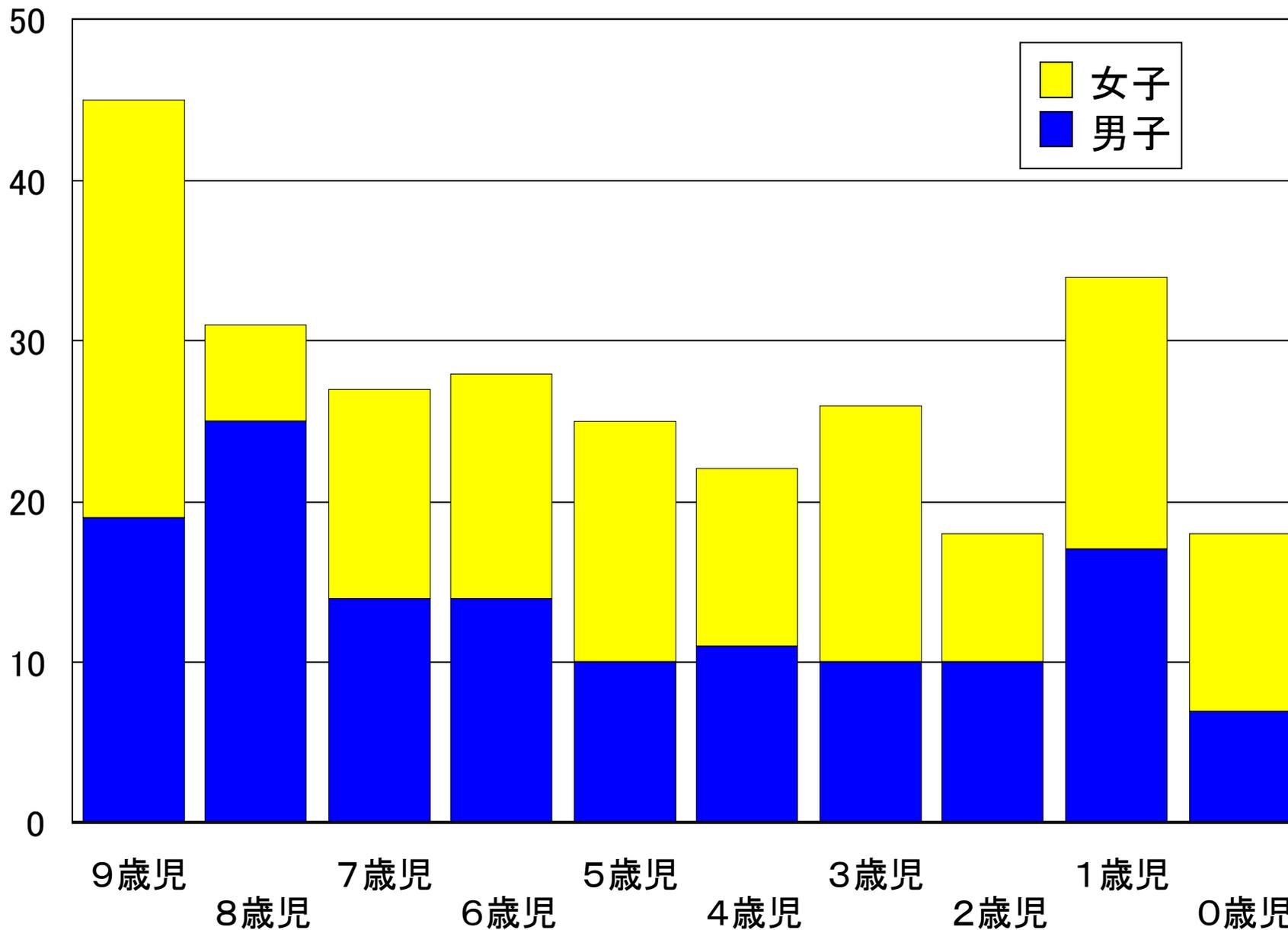
3校が統合した場合の児童数の推移

人



3校が統合した場合の児童数の推移

人



地震だ！津波だ！すぐ避難！



堀切小学校では、全校児童107名と保護者が参加した津波避難訓練を年5回行っている。地震発生 of 校内放送を聞いた子どもたちは、1.5 km先の渥美運動公園(標高27m)に向かって全力で走る。15分以内の到着をめざして、週3回の持久走訓練で体力づくりも行っている。

高台の運動公園に向かって、全力で走る堀切小学校の子どもたち

江戸時代の堀切村を襲った大津波

宝永東海地震(1707) M8.4

表浜の津波の高さ 6~8m

堀切村

民屋30余軒が流出

2人が流死

老若ことごとく城山へ逃れた

安政東海地震(1854) M8.4

表浜の津波の高さ 6~8m

西堀切村

家数233軒中113軒が流出

死者8人 けが人60人

村中が常山に駆け上った

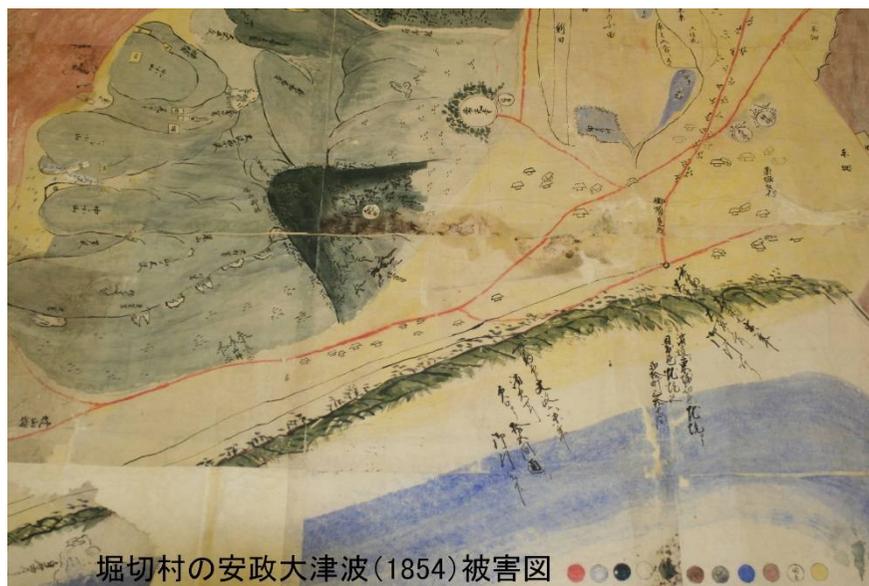
田地一円に土砂で埋まり、

地境が分からなくなった

東堀切村

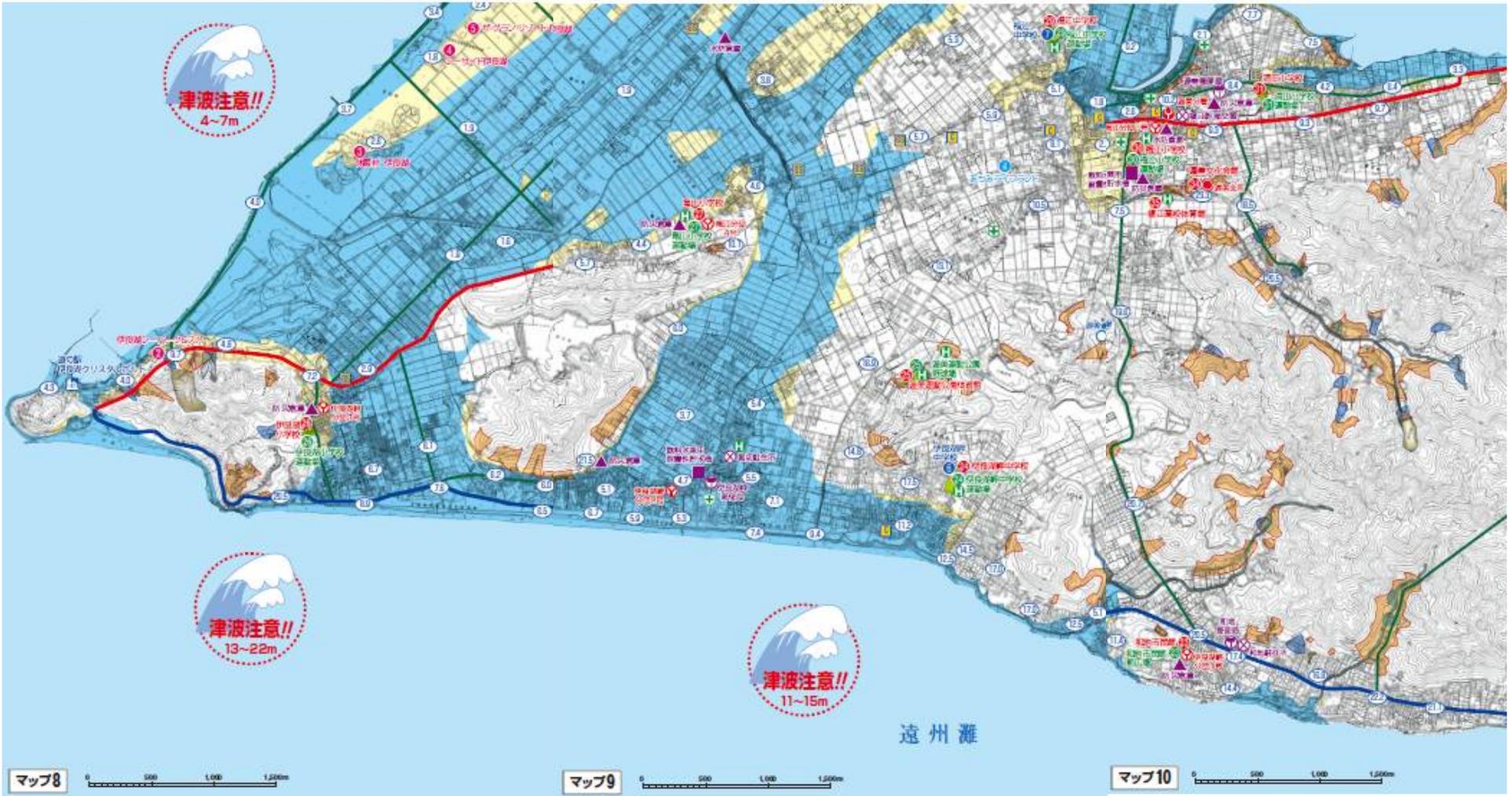
家数68軒中、4軒が流失

流失同様13軒



堀切村の安政大津波(1854)被害図

渥美郷土資料館蔵



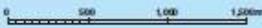
津波注意!!
4~7m

津波注意!!
13~22m

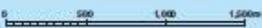
津波注意!!
11~15m

遠州灘

マップ8



マップ9



マップ10





仙台空港を襲う高さ10mの大津波

東日本大震災(2011.3.11)

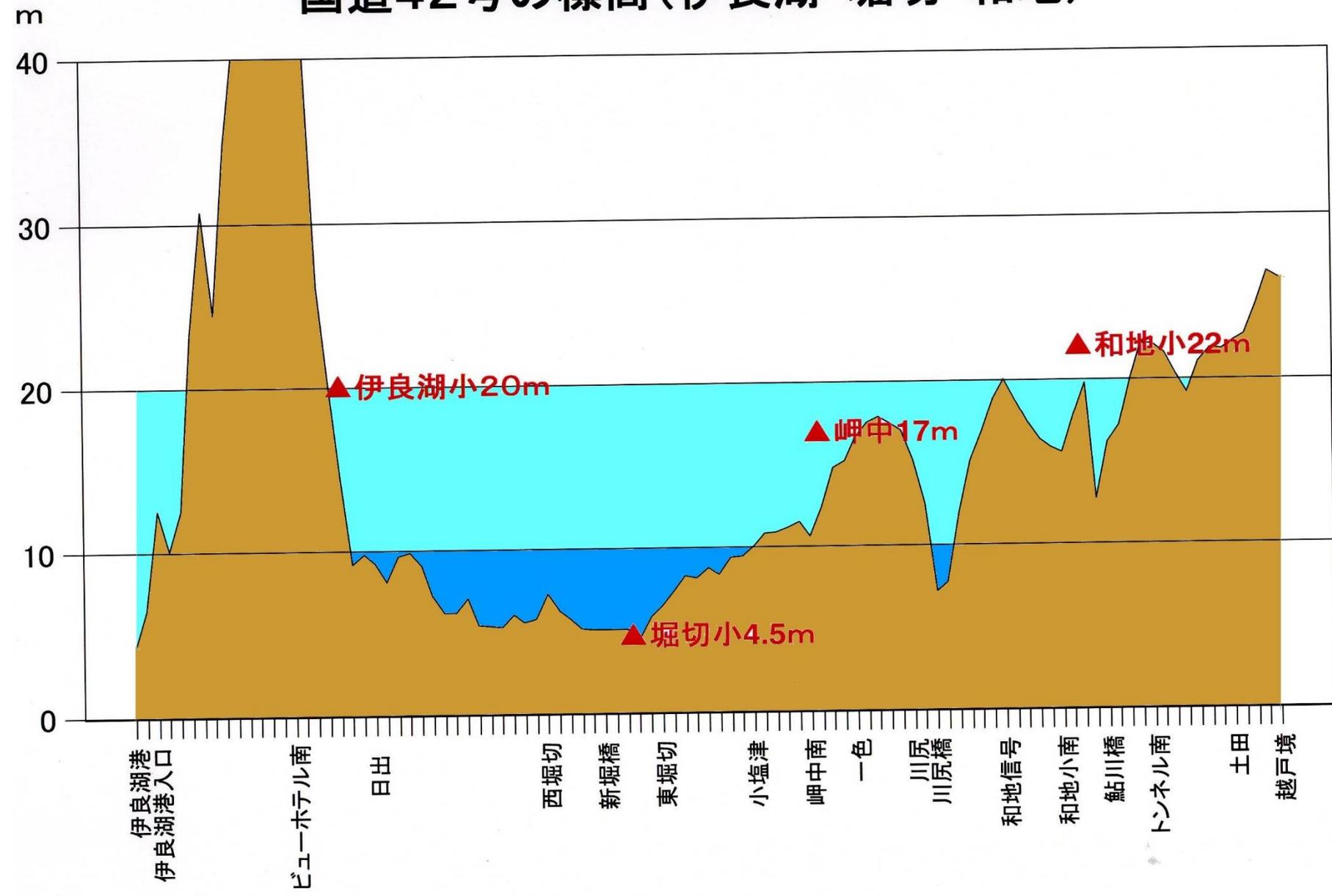
堀切地区

渥美運動公園

堀切小 4.5m

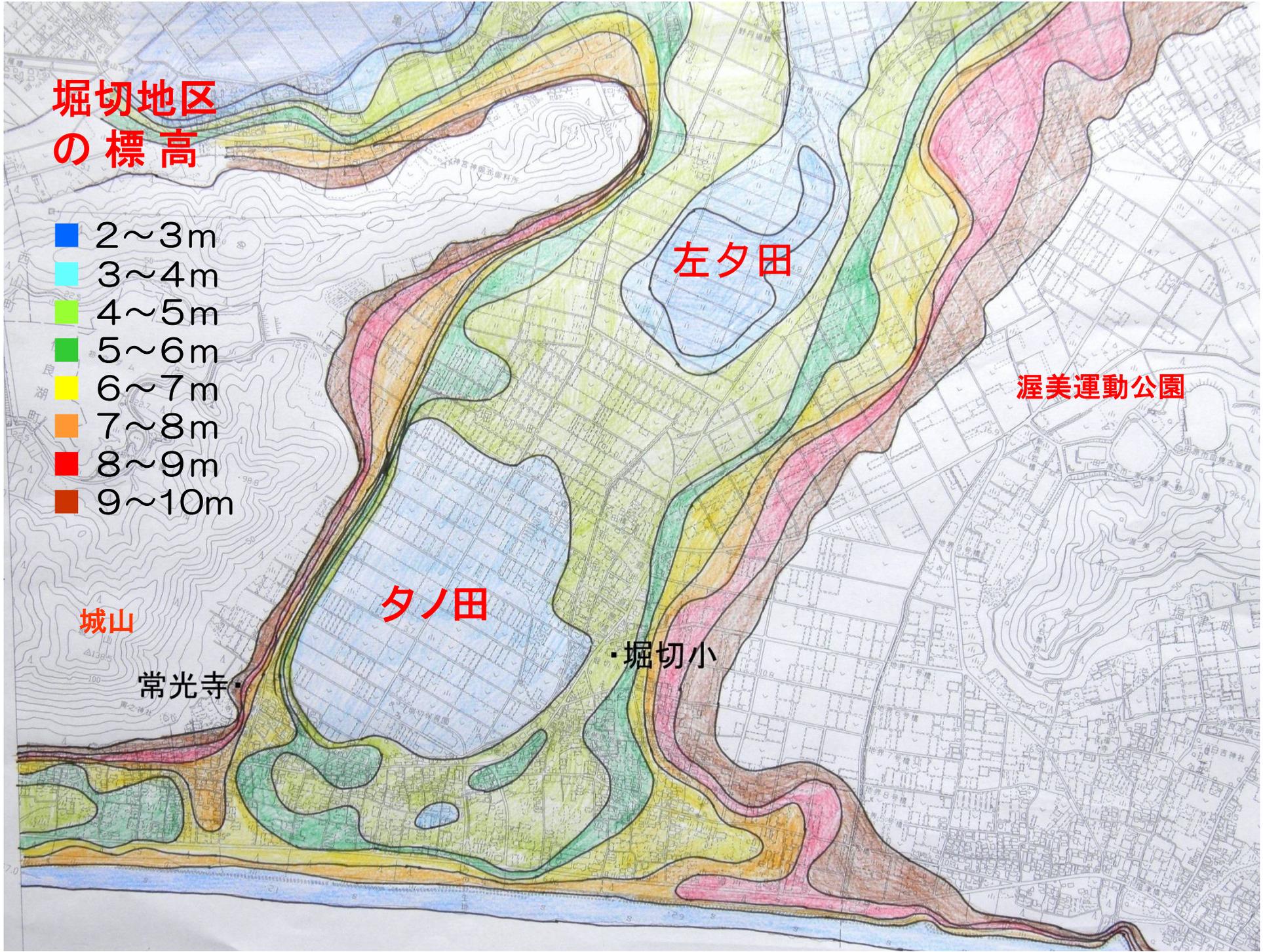


国道42号の標高(伊良湖-堀切-和地)



堀切地区 の標高

- 2~3m
- 3~4m
- 4~5m
- 5~6m
- 6~7m
- 7~8m
- 8~9m
- 9~10m



左夕田

渥美運動公園

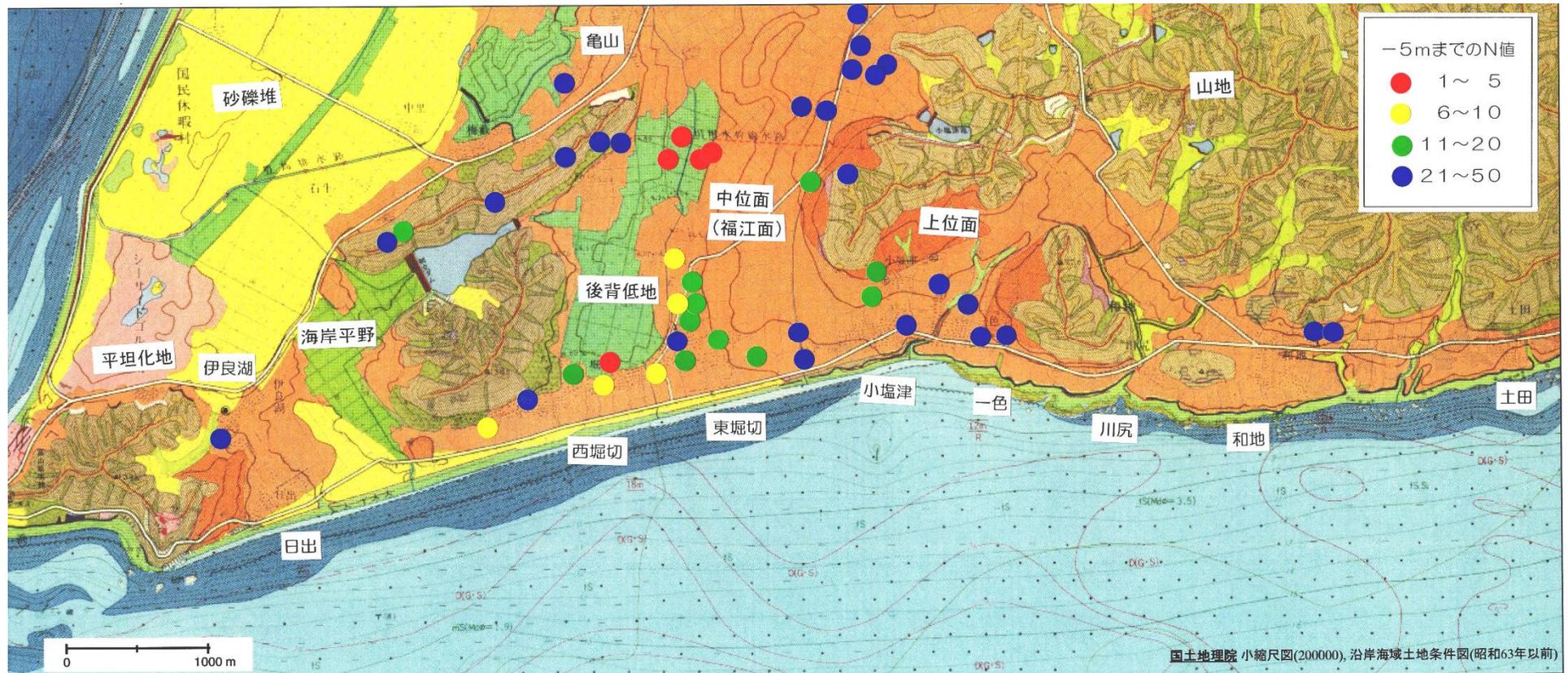
城山

夕ノ田

堀切小

常光寺

伊良湖岬地区の地形面図と地盤の強弱（-5mまでのN値の平均）



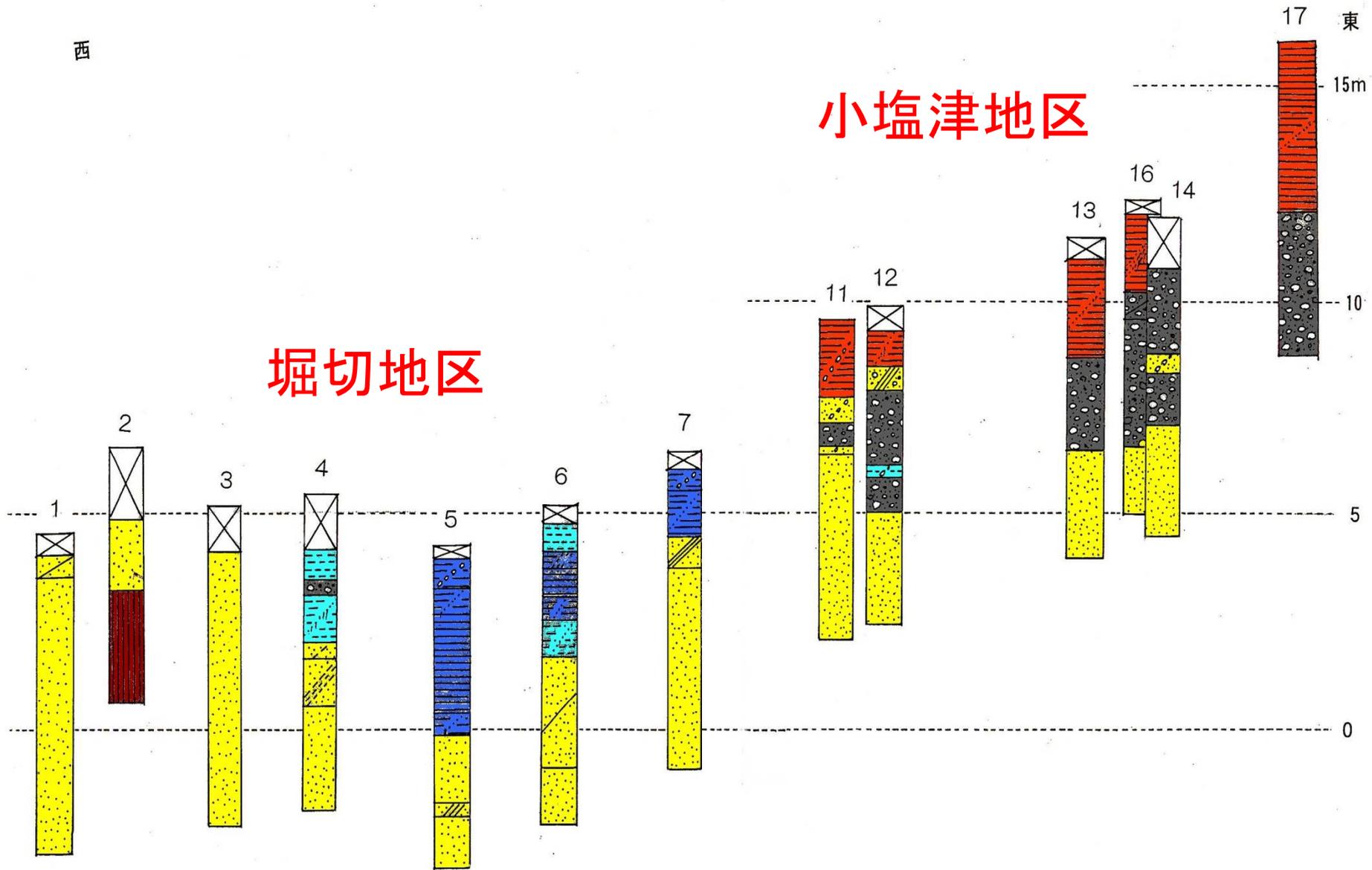
- 山 地** 主にチャートや粘板岩からでき、N値は50以上で非常に固い。
- 中位面** 12万～3万年ほど前に堆積した標高6～20mの洪積台地。
原面は厚さ5m以上の礫層からなり、N値は25～40で安定した地盤である。
- 砂 礫 堆** 6000年ほど前の海進でできた海浜礫からなり、厚さは20m以上にも達する。
新しい地層であるが、固い礫層のためN値は25～30で安定した地盤となっている。
- 後背低地** 自然堤防や洪積台地に挟まれた低湿な軟弱地盤。堀切地区では厚さ10m以上の泥層が堆積し、N値は5以下で、標高2～3m程度の極めて軟弱な低湿地である。

西

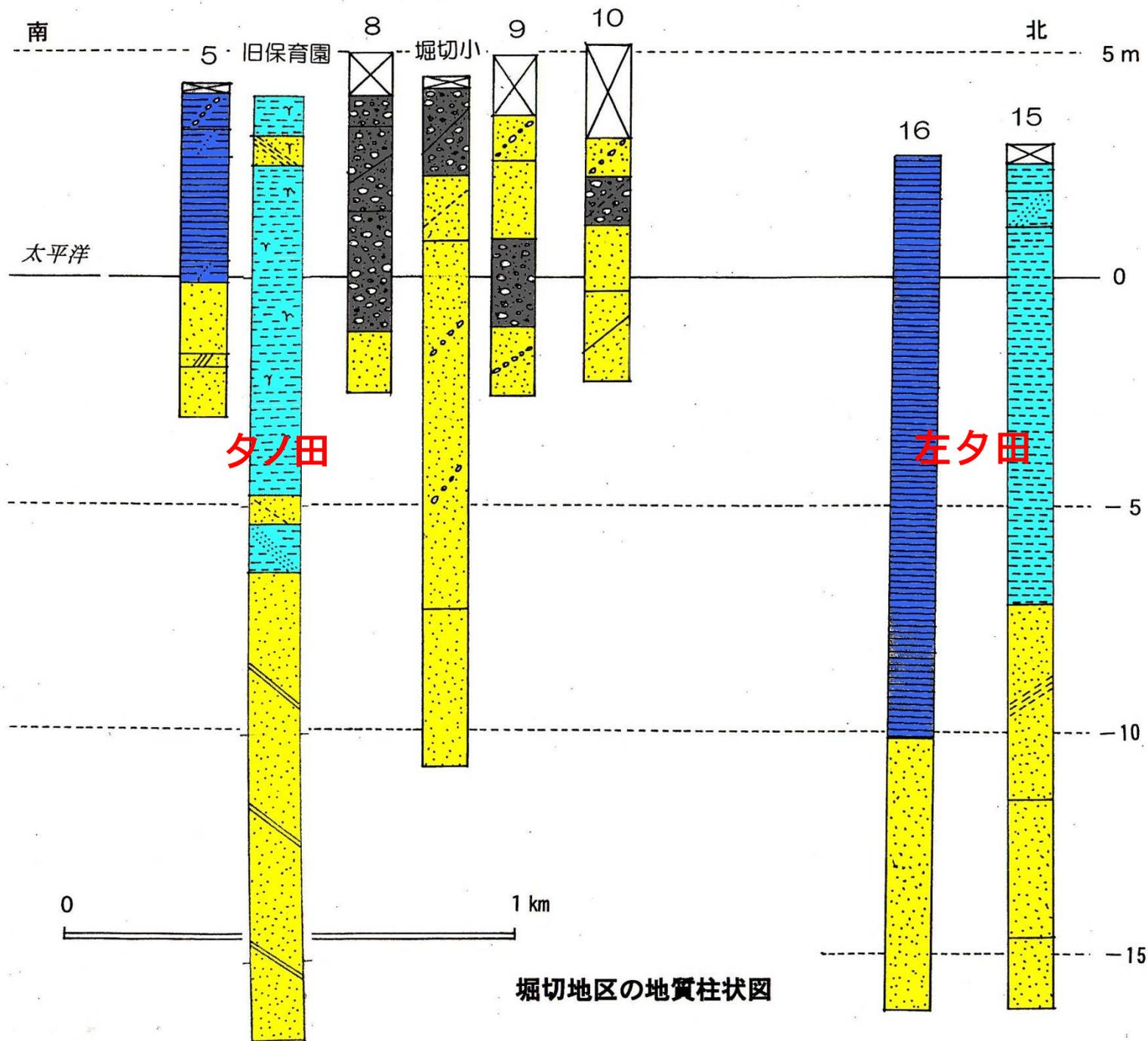
東

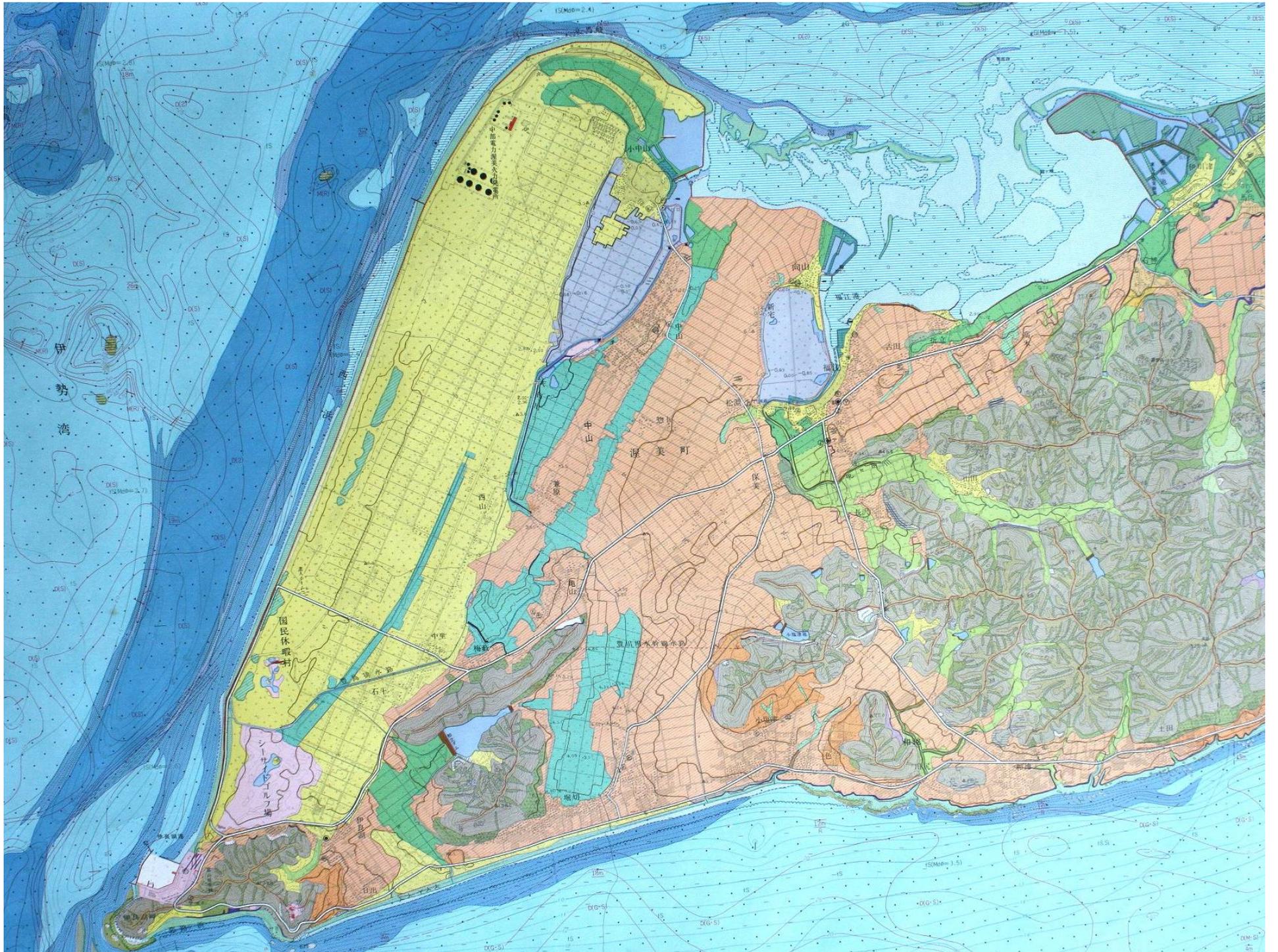
小塩津地区

堀切地区



堀切地区の地質柱状図







- 山地
- 中位段丘
福江面Ⅰ
- 中位段丘
福江面Ⅱ
- 後背湿地
沖積面
- 浜提
砂礫堆
- 干拓地

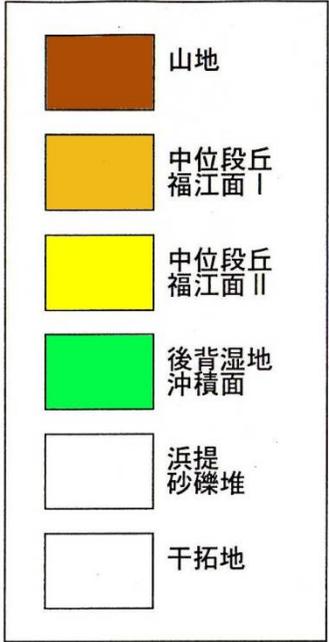
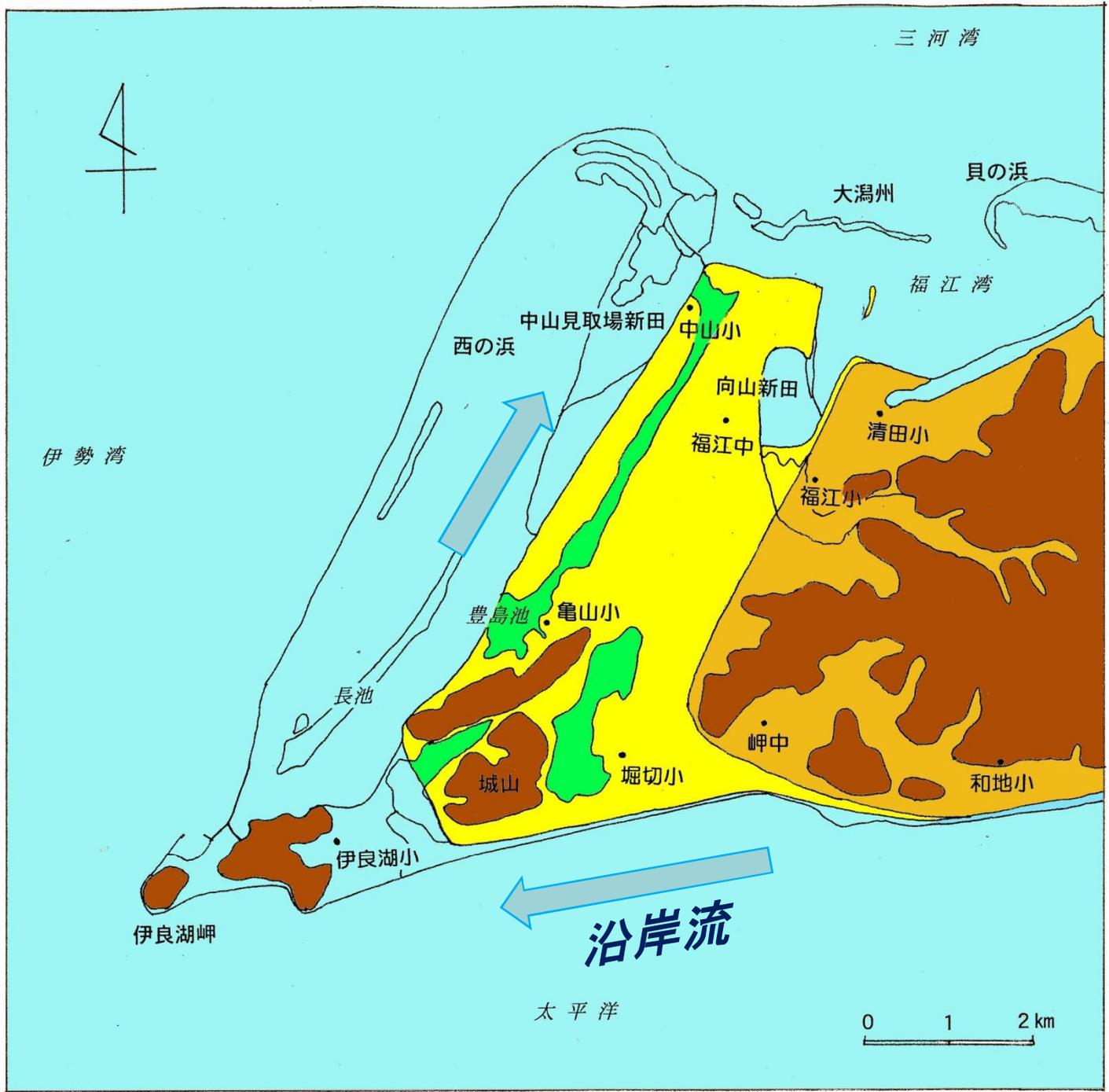
35万年前
の海進期

渥美半島先端部の地形発達史



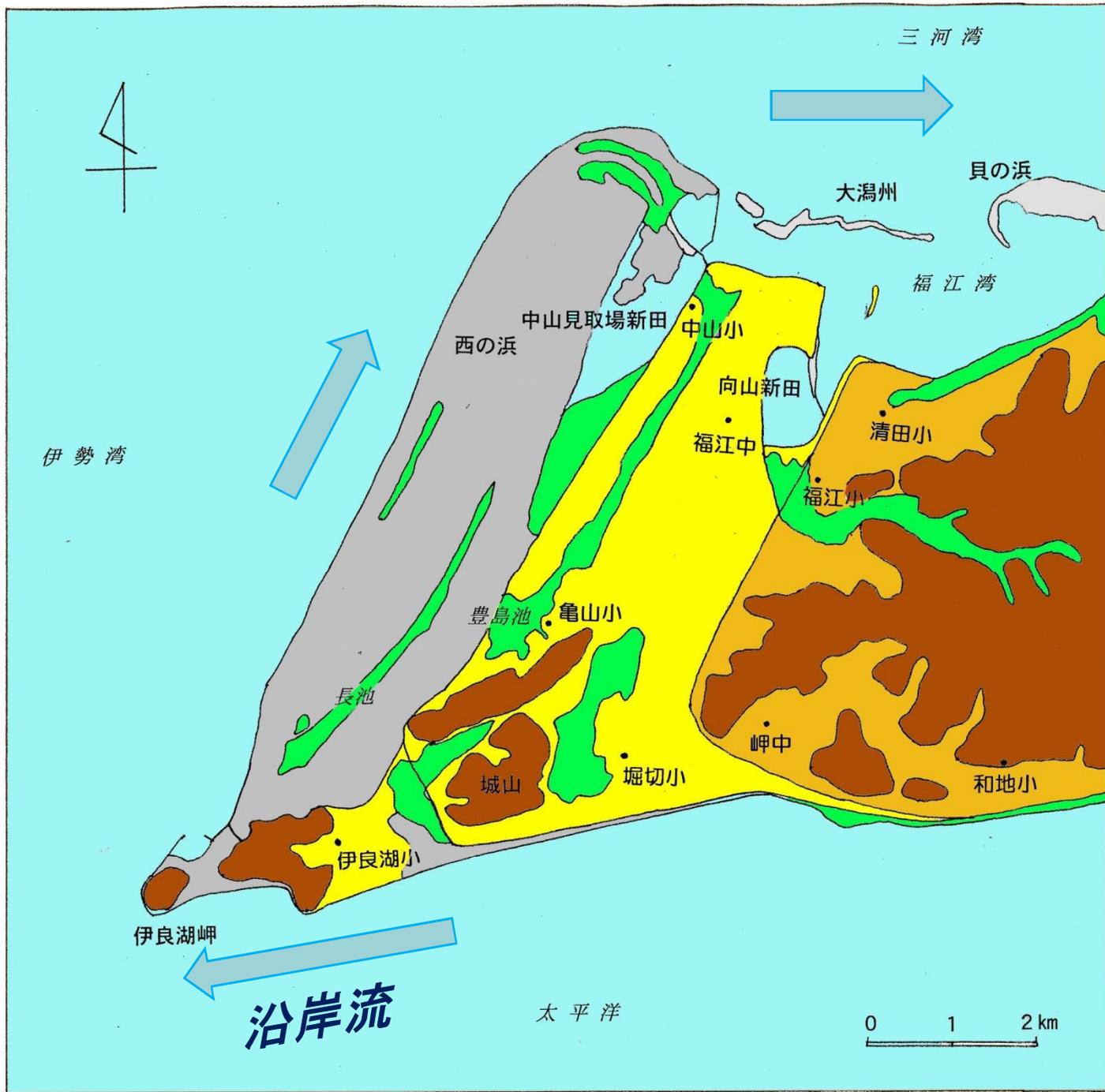
12万年前
の海進期に
福江面が形成

渥美半島先端部の地形発達史



さらに低位の福江面が形成

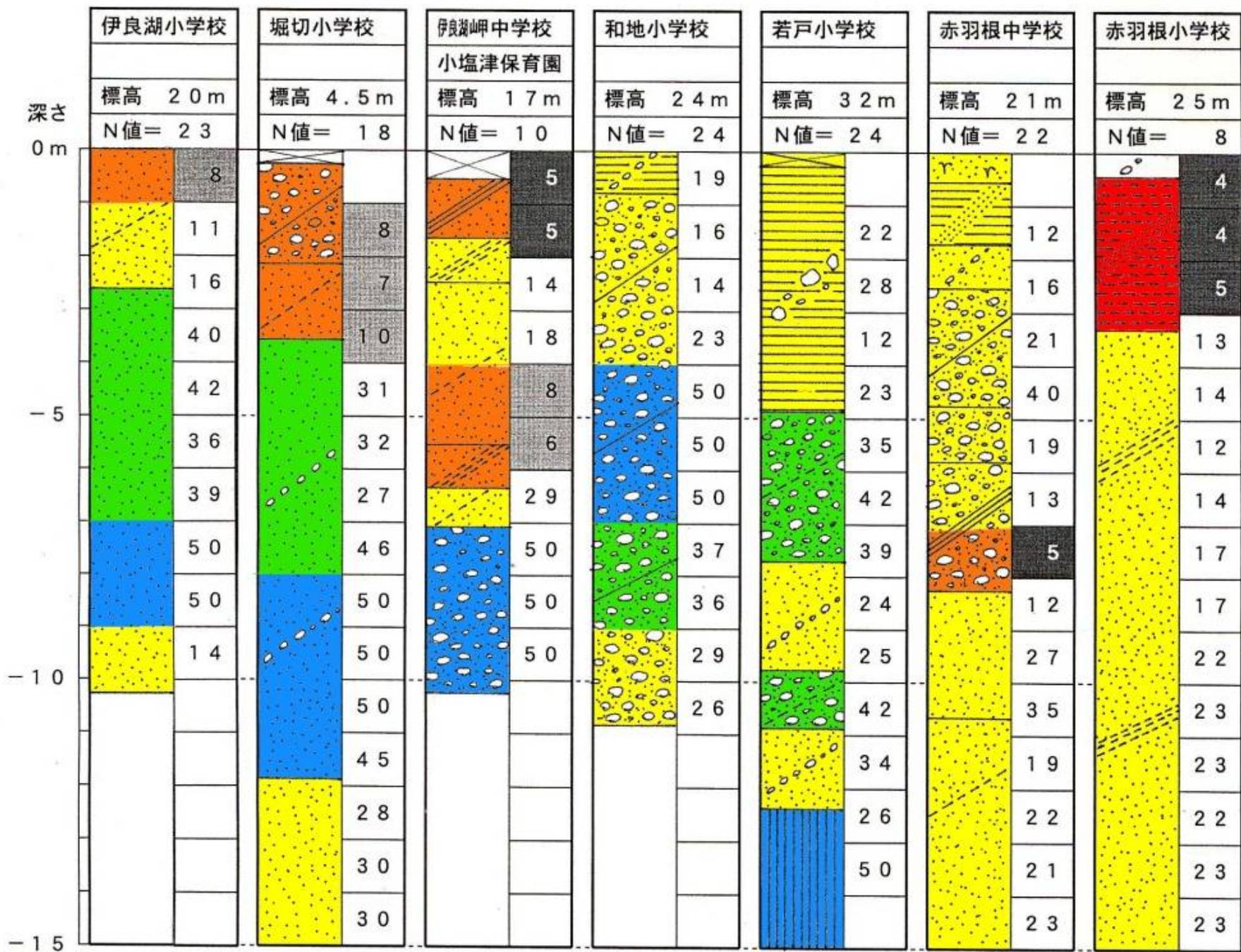
渚美半島先端部の地形発達史



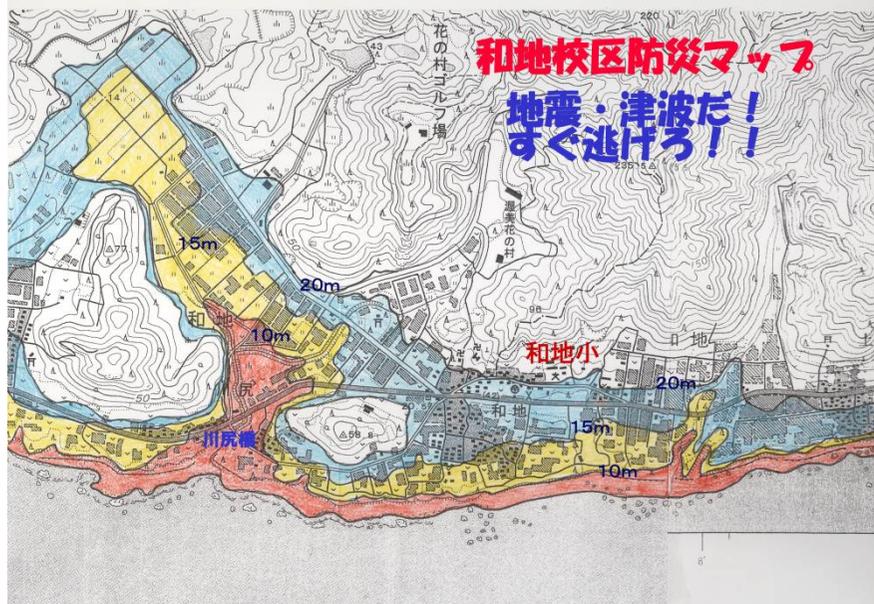
- 山地
- 中位段丘
福江面Ⅰ
- 中位段丘
福江面Ⅱ
- 後背湿地
沖積面
- 浜提
砂礫堆
- 干拓地

6000年前の
縄文海進期に
(高さ2~5m)
西の浜砂礫堆
が形成

渥美半島先端部の地形発達史

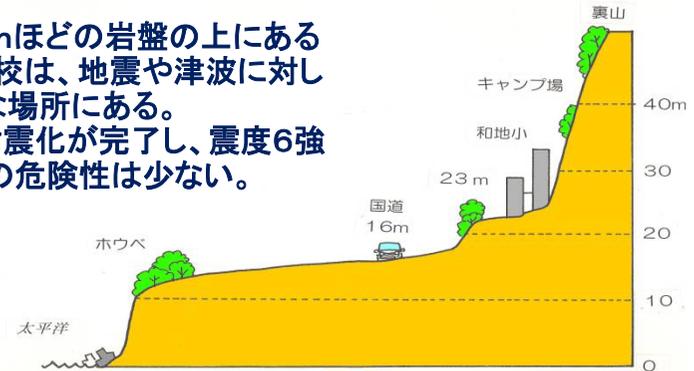


本校の地震・津波防災対策



- 標高23mほどの岩盤の上にある和地小学校は、地震や津波に対して、安全な場所にある。
- 校舎の耐震化が完了し、震度6強でも倒壊の危険性は少ない。

(航空写真は田原市提供)



自らの判断で安全な避難行動がとれる児童の育成
正しい知識と正確な情報に基づいた迅速な避難指示

地震・津波に対する研修により正しい知識
校区の自然環境の把握(標高と地形・地質)
校舎の耐震化(震度6強)と転倒防止策
マニュアルに基づいた避難訓練を繰り返す



決められた避難場所に集合・確認
正確な津波情報などを迅速に収集
より安全な避難経路の選択し指示



保護者の引き取り(震度5強以上、情報発信)
避難所の開設(自治会・PTAとの協力体制)
昨年度、学校・家庭・自治会と防災キャンプを実施

校区の前面には標高15mほどの海食崖がある。しかし川尻橋付近は7m以下であり、安政地震では津波が遡上し3軒が流された。



和地小学校が急傾斜地崩壊(崖崩れ)危険箇所指定されていた
傾斜度30度以上、高さ5m以上の急傾斜地で
斜面上部または下部に人家がある場所

平成23年台風12号による紀伊半島大水害



海食崖の崩落(平成21年東神戸町)
崖部の斜度 47° 以上







和地小学校の裏山

プール北～北館裏の崖部

裏山山頂の標高は97m
銀杏のある道面が34m
プールが標高25.5m
崖の高さは約8mである。

昭和46年(1971)に、裏山斜面の一部を削ってプールが作られた。崖の中程の礫層から、降雨後に湧水が発生する。しかし、プールや側溝、機械室・更衣室にはクランクが見られないので、これまでの42年間に崖崩れや地滑りは発生していないものと考えられる。



平成2年(1990)の和地小学校

昭和55年に新館 昭和58年に体育館が完成



昭和52年(1977)の和地小学校 運動場に芝生が

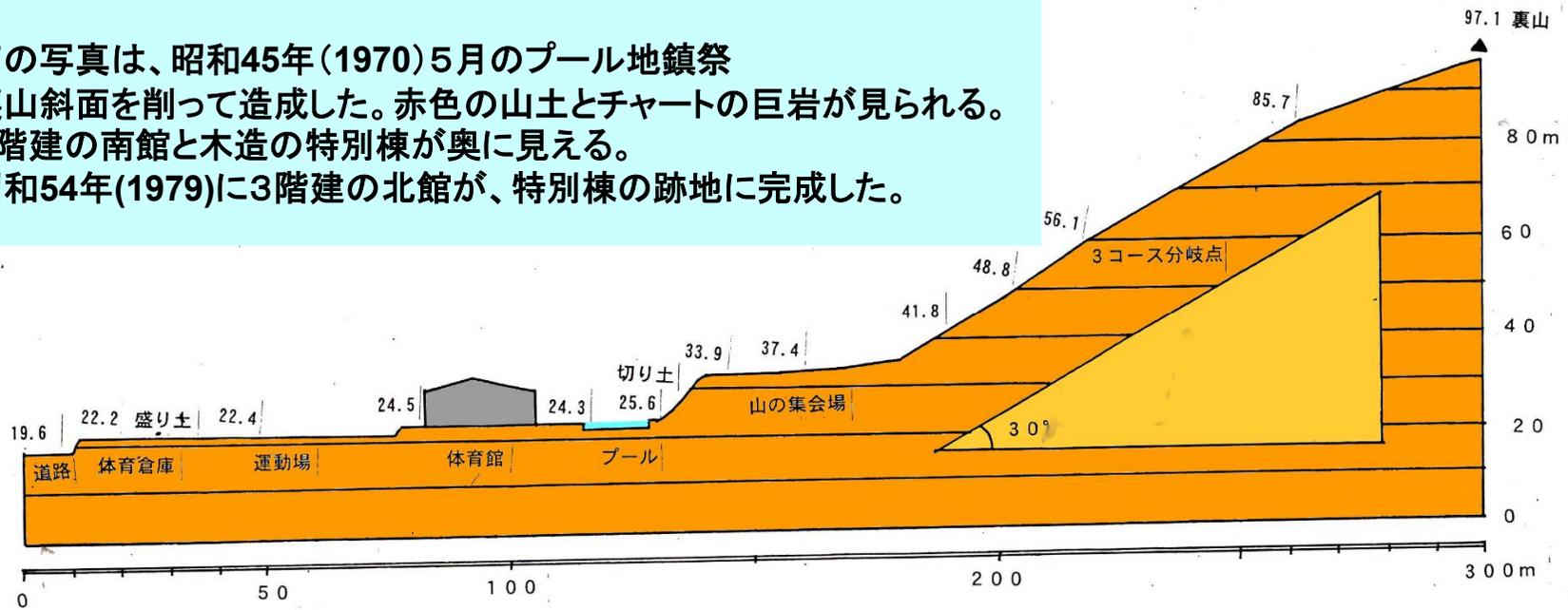


昭和31年(1956)の和地小学校

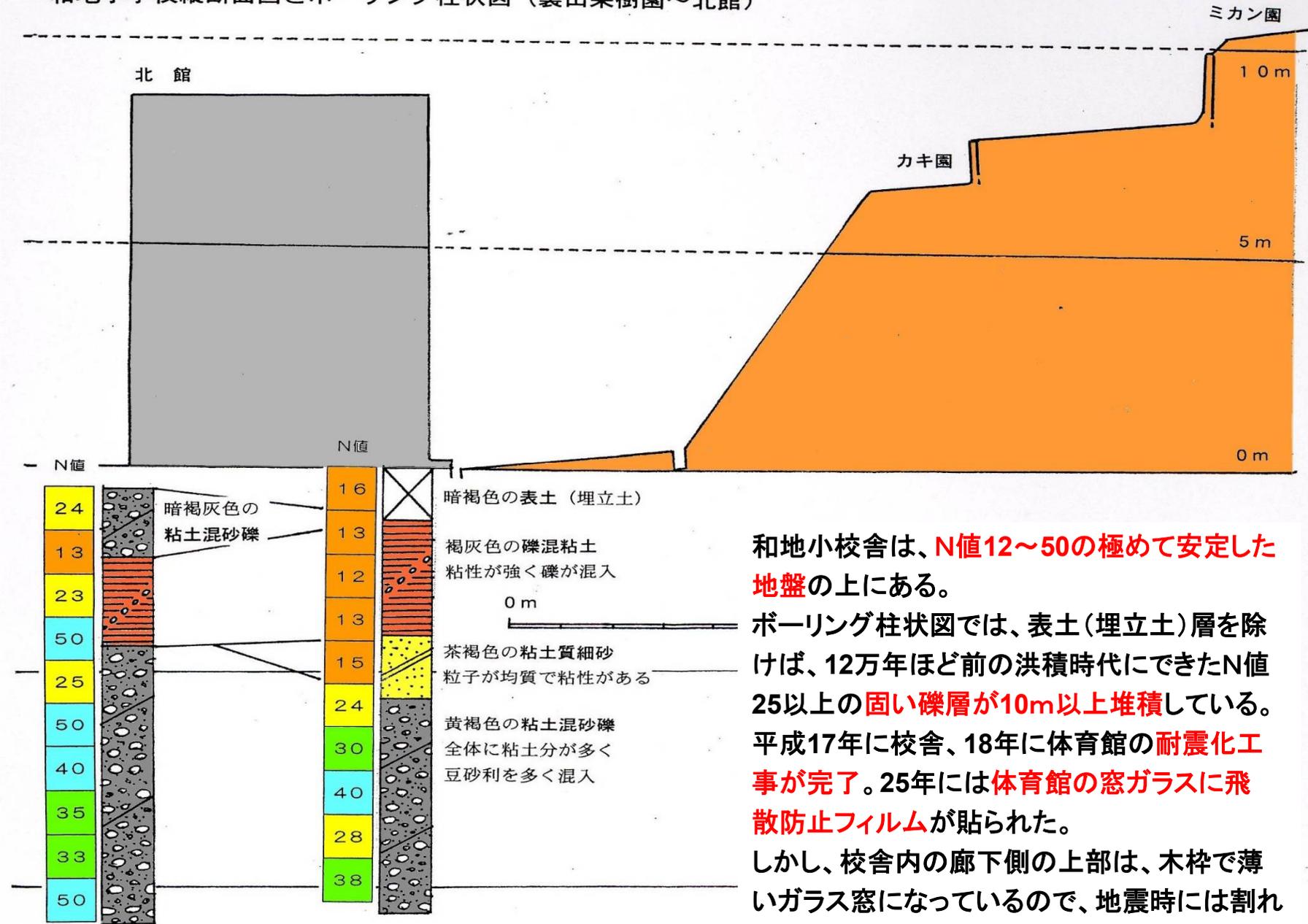
昭和30年に完成した公民館は講堂として使用された。
昭和26年に設置された暖地園芸試験場が校舎の北側にあった。

和地小学校の地形断面図

下の写真は、昭和45年(1970)5月のプール地鎮祭
裏山斜面を削って造成した。赤色の山土とチャートの巨岩が見られる。
2階建の南館と木造の特別棟が奥に見える。
昭和54年(1979)に3階建の北館が、特別棟の跡地に完成した。



和地小学校縦断面図とボーリング柱状図（裏山果樹園～北館）



和地小校舎は、**N値12～50の極めて安定した地盤**の上にある。

ボーリング柱状図では、表土(埋立土)層を除けば、12万年ほど前の洪積時代にできた**N値25以上の固い礫層が10m以上堆積**している。平成17年に校舎、18年に体育館の**耐震化工事が完了**。25年には**体育館の窓ガラスに飛散防止フィルム**が貼られた。

しかし、校舎内の廊下側の上部は、木枠で薄いガラス窓になっているので、地震時には割れたり窓枠ごと落下したりする危険性がある。



北館裏の急斜面の樹木には、一部倒木はあるが、地滑りの兆候を示す根曲がりは見られないので、比較的安定していると考えられる。



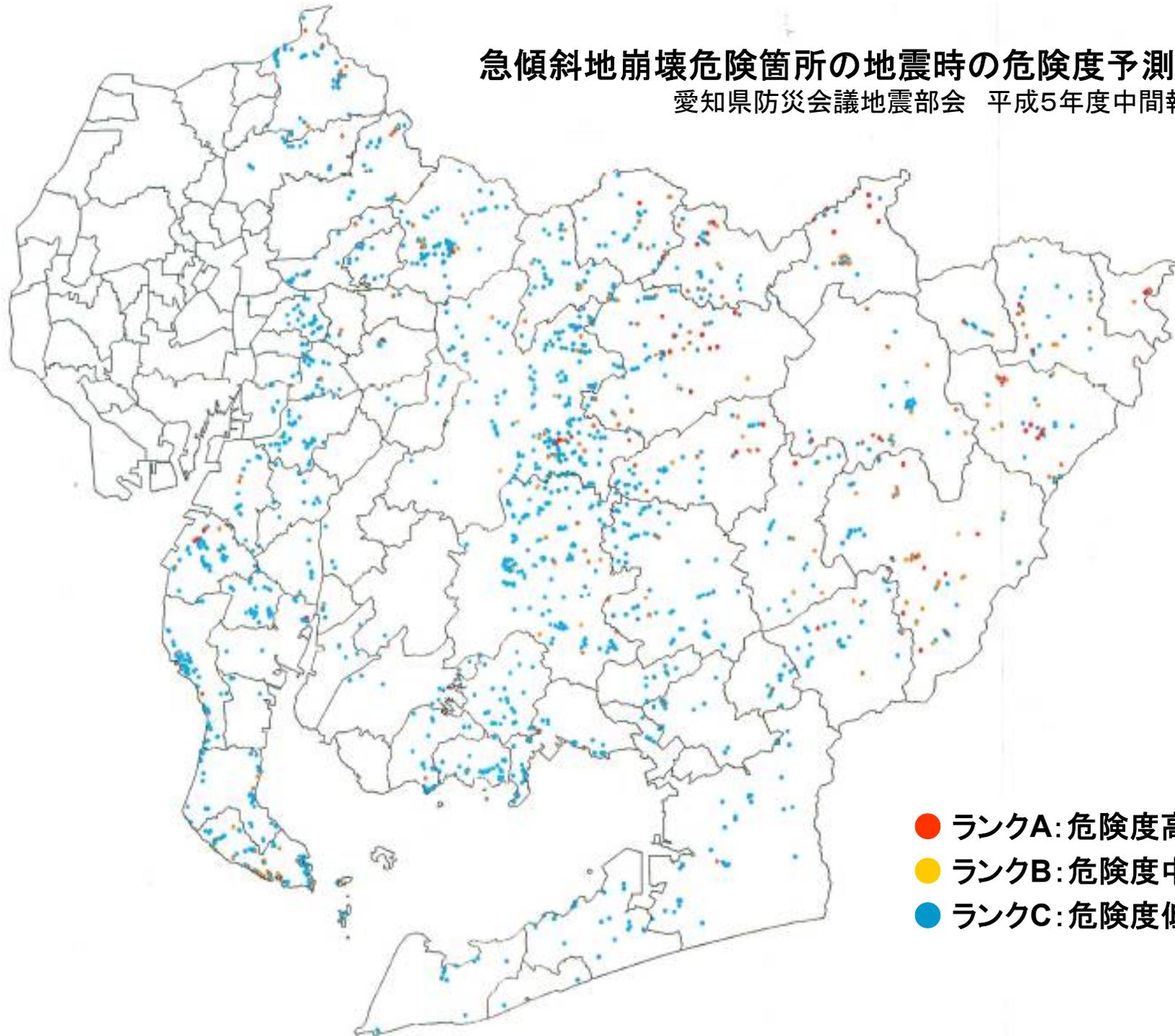
昭和27年(1952)に裏山に設置された暖地園芸試験場のコンクリート擁壁(高さ1m、厚さ10cm)には、崖崩れや地滑りによるひび割れやはらみ出しなどの変形は見られない。



北館北西部の崖には、長径20cm、幅15cm程の穴が昔から2本見られる。大雨の後には、この水みちを通して地下水が勢いよく流れ出す。この穴は、30年ほど前から確認されている。

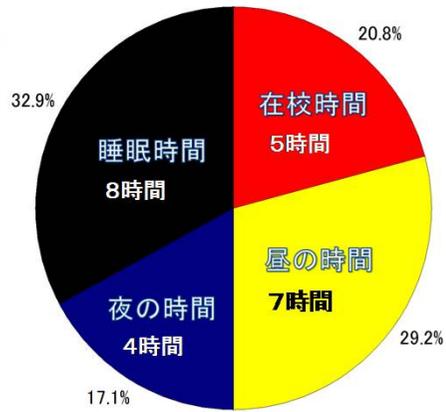
急傾斜地崩壊危険箇所の地震時の危険度予測結果

愛知県防災会議地震部会 平成5年度中間報告書



子どもたちの生活時間

1年間の総時間を1日に換算すると



震度6弱の揺れ最中

